

2024年度アートマイル国際協働学習プロジェクト実施報告

Artmile International Collaborative Learning (AICL)

一般財団法人ジャパンアートマイル（JAM）

一般財団法人ジャパンアートマイルは、背景が異なる海外の人々と協働して新しい価値を生み出す人材の育成を目指して、2024年度アートマイル国際協働学習プロジェクト（後援：文部科学省・外務省）を実施しました。本年度はリピーター校の生徒の成長がめざましく、相手意識を持って対話し、課題を自分事にして考え、解決に向けて発展的に議論して自分たちなりの答えを見つけ、さらに自分たちにできることを実際にやってみるなど、協働学習の質の向上が見られました。特に学習が充実し、生徒の成長が顕著な学校には、文部科学大臣賞、外務大臣賞を授与しました。

1 国内・海外の参加校

2024年度アートマイル国際協働学習プロジェクトには、14の国・地域から、46校1,837名の児童生徒が参加しました。

【参加都道府県】14都道府県

宮城県、山形県、茨城県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、広島県、香川県

【参加国・地域】15国・地域

アルゼンチン、イギリス、インド、インドネシア、ウガンダ、クロアチア、サウジアラビア、台湾、日本、パキスタン、パプアニューギニア、フランス、ポーランド、メキシコ、リトアニア

【参加校・参加児童生徒】

参加校数：46校（日本23校、海外23校）

参加児童生徒数：1,837名

（日本1,117名、海外720名）

【参加校一覧】

NO	国・地域	日 本 校	海 外 校
1	Argentina アルゼンチン	京都府 木津川市立木津南中学校	Colegio Provincial de Educacion Secundaria no.9
2	Croatia クロアチア	東京都 東洋女子高等学校	Privatna Sportska I Jezicna Gimnazija Franjo Bucar
3	France フランス	愛知県 岡崎城西高等学校	Lycee Leonard de Vinci
4	India インド	茨城県 牛久市立おくの義務教育学校	Suncity School
5		茨城県 つくば市立春日学園義務教育学校	Christ Nagar Higher Secondary School
6	Indonesia インドネシア	兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校	Amalina Islamic Junior High School
7		兵庫県 県立芦屋国際中等教育学校	SMP Islam Al Azhar 9
8		愛知県 豊橋中央高等学校	SMA Santo Paulus Pontianak
9	Lithuania リトアニア	山梨県 県立笛吹高等学校	Kursenai Laurynas Ivinskis Gymnasium
10	Mexico メキシコ	岐阜県 県立恵那高等学校	Cecyte Jalisco Campus El Panoramico Tonalá

11	Pakistan パキスタン	大阪府 寝屋川市立第七中学校	IMCG, St.25 F-6/2, Islamabad
12		広島県 尾道市立瀬戸田中学校	Mansehra Public School & College
13		大阪府 府立淀川清流高等学校	Modernage Public School & College, Abbottabad
14	Papua New Guinea パプアニューギニア	神奈川県 横浜市立西寺尾第二小学校	Sogeri Primary School
15	Poland ポーランド	兵庫県 赤穂市立原小学校	Zespol Szkolno-Przed szkolny nr 5
16		香川県 高松中央高等学校	VIII Prywatne Akademickie Liceum Ogólnokształcące W Krakowie
17	Saudi Arabia サウジアラビア	宮城県 宮城県宮城野高等学校	International Programs School
18	Taiwan 台湾	山形県 天童市立干布小学校	Wen Ya Elementary School
19		埼玉県 新座市立新堀小学校	Shuang Xi Elementary School
20		愛知県 名古屋市立丸の内中学校	Chien-Kuo Junior High School
21		広島県 世羅町立世羅中学校	Fu-fong Junior High School
22	Uganda ウガンダ	神奈川県 横浜市立本宿中学校	Kasangula Talent School
23	UK イギリス	愛知県 東浦町立緒川小学校	Earlsdon Primary School

2 アートマイル国際協働学習

アートマイル国際協働学習は、海外のパートナー校とICTを活用して、世界の課題をテーマに対話的・協働的に学び合い、学習の成果として壁画を共同制作するプロジェクトベースの学習です。

海外校との協働学習はJAMが提供するインターネット上のフォーラムを使って行います。

(1) アートマイルで育てたい力

アートマイル国際協働学習では、次の5つの力を育てることを目指しています。

① 異文化を理解する力

世界と出会って異文化を理解する力

自分たちの良さに気付いて自文化を理解する力

② 主体的に考え行動する力

世界に共通の課題に対して主体的に考え、

相手に働きかけて学習をリードする力

③ 批判的に思考する力

外からの視点で客観的にものを見て、

論理的・批判的に考える力

④ 多様な他者と対話・協働する力

多様な考えを持つ相手と議論し、合意し、
協働して新しい価値を生み出す力

⑤ 想いを表現する力

世界の人に伝えたい想いを言葉で表現する力
想いを絵で表現する力

(2) 学習テーマ



協働学習のテーマは社会が直面している世界共通の課題です。それぞれの地域の課題をSDGsに関連付けて共

通の目標を選び、学習テーマとします。

SDGsは2030年までに解決すべき世界共通の目標です。SDGsの17のゴールはあらゆる社会問題を含み、しかもお互いに関連し合っているため、容易に相手と共通のテーマを決めることができます。

遠く離れた海外の相手と、今起きている問題を自分事にして議論を重ね、解決策を考え、自分たちの結論を生み出します。

(3) 段階を追って進む国際協働学習

アートマイル国際協働学習は、次の5つの段階を追って進みます。

1. **調べ学習** 自校での調べ学習(6月～7月)
 - ・相手と相談して決めた共通のテーマについて自校で調べ学習
2. **共有** テーマ学習の共有(9月)
 - ・自校で調べたことを相手と共有
 - ・課題と解決策について意見交換
3. **融合** 想いを形に(10月)
 - ・多角的、批判的な視点で議論
 - ・自分達の未来について両方の想いを合わせてメッセージを作成
4. **創造** 壁画制作(日本11月～12月／海外1月～2月)
 - ・メッセージを込めて壁画を共同制作
(先に日本側が半分を描いて相手に送付、海外側が壁画を完成させて日本に返送)
5. **評価** 振り返り(3月)
 - ・相手から届いた完成壁画を鑑賞
 - ・学習全体を振り返って自己評価

国際協働学習で特に重要な段階が、調べたことを共有し、議論を重ねて自分達の想いを生み出す「共有」と「融合」です。

(4) JAMの学習支援

JAMは参加校が年間の見通しを持って相手校と協働学習を進めることができるように、学習の指針となる「カリキュラムモデル」と学習の各段階でいつ何をすればいいかが分かる「To Do リスト」を提供しています。また、教師用のメーリングリストを立ち上げて、適時役立つ情報や注意事項を知らせ、参考になる他校の学習事例を紹介しています。

3 AIの活用

今年度の協働学習で見られた新たな傾向は、AIの活用です。調べたことをパワーポイント等にまとめる際に、AIを活用して視覚的に分かり易い資料を作成して相手に伝える学校が出てきました。特に、壁画のデザインを考える場面では、生成AIを活用

して、自分たちが納得できるまでキーワードを変えて「壁打ち」をして、自分たちが表したい理想のデザインに近づけていました。

以下は、AIを活用した学校からの報告です。

・AI活用によって一人ひとりの考えを広げることができた。・行き詰まったときにAIを活用すると新たな発見があった。・AIに任せるのではなく最後は人が取捨選択をすることが大事。



4 学習の成果

国際協働学習を通して児童・生徒にどのような意識の変化や成長が見られたのか、教師自身にどのような変化があったのか、報告書とアンケートから紹介します。

(1) 児童・生徒の意識の変化

<小学生>



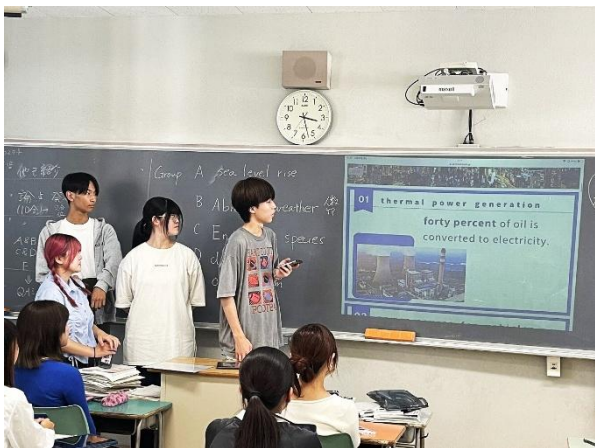
- ・相手国には自分たちにはどうすることもできない問題があることを事実として受けとめ、自分たちが日本で何ができるかを考えることができた。
- ・同じテーマを違う環境で育った同年代の子ども達と考えていく活動そのものが刺激的だった。課題は同じでも、見る窓が違えば見える景色が違ってくことに気付くことができた。

<中学生>



- ・話すことが苦手な生徒もいたが、自分の言葉で発信することで自信が生まれ、全員が一体感を持って取り組んでいた。
- ・TV会議では、回数を重ねるごとに緊張感から解放されて、笑顔で発表したり、相手の表情を感じ取りながら意見交換ができるようになった。
- ・相手の意見については興味を持って読み込み、自分たちのことを伝えるときには相手の視点や考えを意識して喜々として取り組んでいた。

<高校生>



- ・活動前は異なる同世代と話し合うことに疑問を持つ生徒がいたり、自信が無かったり、前向きな要素が少なかったが、活動を通して言語上で十分に伝えることができなくても相手の考えを聞くことを面白いと実感し、他国の問題について自分たちも考えなければという気持ちが生まれた。
- ・オンライン会議では相手の発表内容を理解しようと集中し、質問しようとする姿、相手の考えを尊重しながら、題名、テーマ、壁画デザインを組み立て協働でゴールを目指そうとする姿が見られた。

- ・メッセージも壁画デザインもはじめは相手と重なる部分が少なく、一つにする難しさを感じながらも、違いから学ぼうとする姿が見られ、どちらの意見も取り入れた新たな案を提案することができた。

(2) 教師の意識の変化

<小学校>

- ・世界の情勢についてアンテナを高く張り、今日本と相手国がどんな状態にあるのか教師同士でよく話した。
- ・壁画を描くまでのプロセスが学びの深さに直結するということを感じた。調べ学習や交流を経たからこそ描けた絵だった。

<中学校>

- ・未知なる国の学校と協働で壁画制作をするという壮大なプロジェクトが完遂して、生徒と共に言語・文化を超えた体験ができたという充実感が残った。
- ・交流展開やデザイン作成等にAIソフトを駆使したことで、教員のICTスキルが高まった。

<高校>

- ・世界とつながることが生徒の学びや意識に与える影響の大きさを実感した。他国の教員がもたらす新しい視点や方法に触れることができ、日本の教育の枠を超えた学びの可能性を再認識した。
- ・パートナー校の生徒や先生から国の現状や考えを直接伝えてもらうことで、インターネットで調べるだけでは分からない気づきや学びがあり、当事者意識が生まれ、多角的に考えられることを再認識した。

5 文部科学大臣賞・外務大臣賞

2021年度・2022年度・2023年度に続き、優秀な実践を行った学校に文部科学大臣賞と外務大臣賞を授与しました。

選校に当たっては、2024年10月に選考委員会を発足し、相手校との協働学習に主体的に取り組み、持続的にコミュニケーションをとって学びを深めた学校が選校されました。

■文部科学大臣賞

メキシコのCecyte Jalisco Campus El Panorámico Tonaláと協働学習を行った岐阜県立恵那高等学校に文部科学大臣賞が授与されました。



<審査員評価>

両校は、SDG11(住み続けられるまちづくり)と 15(陸の豊かさ)を共通テーマに、自らの地域課題や文化の特色を深く掘り下げた。日本側は「もし市長だったら」という具体的な提案など現実感あふれる学びを促進し、プレゼンテーションや学習状況の共有で議論をリードした。一方、メキシコ側も自地域の強みや課題を率直に伝え、互いに意見を交換した。自己紹介や地域紹介を重ねて信頼関係を構築した上で、協働で壁画のデザインの検討を進めた。結果として、質の高い協働が充実した学びを実現し、作品にも反映された実践となったことを評価した。

<生徒の感想>

- ・物事には背景があるということを知り、背景を知ることで新しい視点を持てた。一つの問題でもいろんな事が絡み合っているから、視点を変えたり、多面的に考えないと解決できないと思った。
- ・以前は日本の問題しか見ていなかったけれど、メキシコの問題の現状や原因を直接相手から聞くと、これまでと違う視点で深く考えることができた。世界に目を向けて国毎に問題の背景があることに気付けた。「自分の考えはこれでいいのか？」と自分に問うようになったことが自分の成長だと思う。
- ・他の国のことを知ることで日本に応用できることがあると思う。もっと他の国のことを知って考えると解決の良いアイデアが出てくるのではないかな。
- ・この活動を通して自分の意見を周りに伝えられるようになった。相手に対しても自分から考えを発信できるようになった。

■外務大臣賞

インドの Christ Nagar Higher Secondary School と協働学習を行ったつくば市立春日学園義務教育学校に外務大臣賞が授与されました。



<審査員評価>

春日学園義務教育学校の生徒たちは、SDG4「質の高い教育をみんなに」に着目し、「いじめ」という身近な問題に真正面から取り組み、対話と壁画制作を通して深い学びと交流を実現した。日本側は、生成 AI を活用し試行錯誤を重ねながら壁画デザインを提案した。インドの生徒たちとのやりとりも充実しており、双方の意見を柔軟に融合させた提案へと結実した。両校間の教師連携と計画的な進行が相まって、生徒たちが自ら意見を発信し、問題解決に向けた議論を深めた点が特筆に値する。結果として、実践的かつ深い学びの成果が確認できた取り組みとして評価した。

<生徒の感想>

- ・学習以外に合唱やダンスなどいろいろな方法で交流したことで言語以外の手法でも人と人は理解を深めることができることを実感した。
- ・これまで日本のことしか見ていなかった。今回はインドとやっただけだが、世界に関心が向くようになった。自分の視野が広がったと感じて、自分でも驚いている。
- ・インドからどんどん意見が入ってきて、自分達からもいろんな意見が出てきて、それをどうまとめるかは難しかったけれど、お互いが納得できる形でまとめられたときにはとても充実感があつた。
- ・「人と協力する」ことの大切さを学んだ。もしインドの相手がいないければ、もし実行委員になっていなければ、今回の大臣賞はなかったわけで、インドと協力し、委員同士協力したからこそ大臣賞があると思っている。

6 課題と展望

このところ、「探究学習」で地域の課題を調べ、地域の人たちと一緒に課題解決に取り組む学校が増えています。また、「キャリア教育」として、地域で職場体験やボランティア活動を行って、自分の将来を考える授業を行っている学校も増えています。

「探究学習」と「キャリア教育」に共通しているのが「地域」との連携です。身近な地域と繋がって社会意識を育てるのは、社会に開かれた学校という意味でも、社会の担い手を育てる教育という意味でも大切なことだと考えます。

一方で、視点が内向きになってはいないでしょうか？同質性の中では、新しい問い、これまでにない解決策はなかなか生まれません。

グローバル化が進んだ現代社会では、地域の課題が世界と繋がり、世界の課題が地域の課題に繋がっています。世界で起きていることに関心を持ち、自分事にして考える力、外からの視点で批判的に考える力がこれからの時代を生きる上で必要です。

アートマイルに取り組んでいる生徒達が国際協働学習だからこそ成長していると感じるのは、世界の異なる価値観を持つ相手と話し合いを重ねることで問題を批判的に見ることができ、新たな気づきがあり、新しい「問い」が生まれ、自分たちなりの答えを見つけることができているということです。

また、遠い世界に住んでいる相手と仲間意識を持って話し合いを重ねることで、自分たちの課題も相手の課題も自分事にして考えることができ、双方にとってより良い解決を見つけようと模索することが新しいものを生み出す力となっているところです。

アートマイル国際協働学習プロジェクトは2025年度で20周年を迎えます。これまでに制作された壁画は1,111枚になりました。2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）では、協賛団体として、万博に参加する158の国・地域の作品の展示を行います。20年間の集大成として記念すべき年となります。この年に、世界が平和になりますようにと願って止みません。